

学士特定課題研究論文

学位論文の
体裁に関する研究

東工大 太郎

17B00000

東京工業大学
情報理工学院
情報工学系

指導教員 情報 一郎

2021 年 1 月

概要

学士特定課題研究論文は、シングルカラムでページ数に制限はない。

目次

概要	ii
第 1 章 序論	1
1.1 本研究の位置づけ	1
第 2 章 結論	2
付録 A 定理 1 の証明	3
謝辞	4
参考文献	5

図目次

1.1	3次元の球	1
-----	-----------------	---

表目次

1.1	要素群	1
-----	---------------	---

第 1 章

序論

本論文は、学士特定課題研究論文の書き方 [1] の一例を示す。

1.1 本研究の位置づけ

ここでは、色々なサンプルを示す。次の式 (1.1) の通り n 次元の超球を仮定する。 $n = 3$ の場合は図 1.1 のようになる。

$$r^2 = \sum_{k=1}^n x_k^2 \quad (1.1)$$

一方で、表 1.1 によれば、a、b、c、d の 4 つの要素がある。

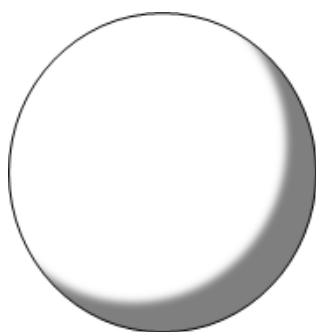


図 1.1 3 次元の球

表 1.1 要素群

a	b
c	d

第 2 章

結論

結論は、網羅的にかつ簡潔に。

付録 A

定理 1 の証明

必要に応じて、付録を載せる。

謝辞

本論文の執筆にあたり、議論して頂いた関係者に感謝する。

参考文献

- [1] 東工大太郎. 良い論文の書き方. *Journal of XYZ*, Vol. 3, No. 4, pp. 15–34, 2015.